



特集.4

多くの人が関わり育ててくれる 宇和海熟成酒

(宇和島市)
NPO法人元氣島プロジェクト事務局 上甲 教文



地域おこしの財源確保として

2014年7月。NPO元氣島プロジェクトの事務局として宇和島市戸島に移住したばかりの頃、地域おこしに携わっていく上で、最初の悩みは「地域おこしをする資金をどう確保すればいいか」でした。

地の利を活かして海で取れるモノをお金に換えるのが一番手っ取り早いやり方ですが、海のものには島の人々の財産であり、それをNPOが取ってしまうことになるのはまずい。では、島の人が獲った海産物を加工して付加価値を付けられようか。これはビジネスとしては可能性はあるが、初期投資や人件費などの経費を考えると地域おこしの財源としてお金を浮かせるのは至難の業。今あるもの以外で人手がかからないこと…そんな都合のいいものが何かないだろうかと考えていたときに思いついたのが「お酒を海に沈めて熟成させる」というものでした。これなら元々海にあるものではないし、海流がお酒を熟成させてくれる、つまり海

が仕事をしてくれるため人手もかからない。さっそく島でダイバーをやっている人に声をかけてみることに。

やってみんかなーおもろいね(決まり)

「沈没船から引き上げたお酒が100万円以上で取引されてるらしいんやけど、戸島の海にお酒沈めてみんな？」当時の私は戸島に移住してきてまだ1ヶ月ほどで、ほぼ知り合いもいません。島の人からすればどこの誰だか、何しに来たのかもわからない謎のおっさん。そんな人間からの唐突な提案に彼は即答しました。

「何それ。おもろいね」
イケイケドンドンタツグ成立の瞬間です。

目標設定はちょっと高めに

沈めて味がどう変わるのか、変わらな
いのか。海底でゴミが流れてきて割れた
りしないのか。判らないことだらけでし

たが、水温が下がってくる11月に100本投入することを目標にお酒を集めてくる計画、どうやって海底まで沈めるか、どうやって海底でお酒を守るか。しっかりと守りすぎて海流がボトルに当たらなくなったら意味が無い。など、考えられることを思いつく限り考え、11月に集まったお酒は53本。目標の半分しか集まりませんでした。でも、初めての取り組みに賛同してくれた人がこれだけ集まったことに価値がある、これが来年に繋がるとは思いませんでした。

自分たちが言いに言いかせ、2014年11月に53本のお酒を海底に設置しました。



引上げ作業

その後定期チェックを経て、翌年6月に引上げ。若干の不具合があったものの(3本ほどキャップの封が甘く、海水が浸水したものがあつた)、ボトルが割れたりすることはなく、無事に預けていただいた持ち主にお返しすることができました。



日本酒の変化

計画された偶然理論を地でゆく宇和海熟成酒プロジェクト

そして昨年(H27年)秋、目標300本を掲げて県内の酒造メーカー40社余りにダイレクトメールにて協力を打診し、8社からご協力いただくことになりました。熟成委託を受けて沈めるお酒の他、PR用として無償でお酒を提供していただいたものを含めるとメーカー様からお預かりしたお酒だけで約400本が集まり、個人からのものとあわせると約530本のお酒が集まりました。

ご協力いただいた8社の中に宇和島

を代表するメーカー兼酒卸として「名門サカイ」という企業があり、松島教輔社長から思ってもみなかった提案をいただいたので



海すずめ大森監督とダイバー

「いま宇和島でロケしてる映画あるでしょう。その映画の公開にあわせて『海すずめ』という名前のお酒を作りたいんです。これを戸島で熟成させてもらえませんか。」

この言葉を聞いた瞬間、頭に血が上ったのを鮮明に覚えています。(もちろん怒ったわけではありません)

また、西予市城川にある「媛囃子(ひめばやし)」というメーカーの佐々木重子営業部長は、「その取り組みを本格的にやるにはお酒の小売免許が必要だから、松山税務署と一緒に行って担当の人に話してあげる」とわざわざ松山まで付き添ってくださったのです。

多くの方が自分ごとのように

今年の6月に2度の引上げ作業を行なっ

て約450本のお酒を引き上げましたが、中には前年の実験では発生しなかった^{*}浸水が見られるものもあり、個人でお預け頂いた方、メーカー様にもご迷惑をおかけいたしました。皆さんの方から、どうすれば浸水を防げるかという問題についてご提案をいただき、また、「この取り組みを成功させたいから塩っぱいお酒を飲みながら一晩考えたんや」と、実際に試作品を作ってお持ちいただいた方もいらっしゃいました。このことも私なりにこれまでに経験してきたお客様像からは大きくかけ離れています。本来ならクレームになるはずのところを大半のお客様が「頑張つてや」「成功させてや」と口にされるのです。歳のせいかな、このような言葉をいただくたびに目から汗をかきそうになります。

自分たちなりにちよつと背伸びした目標を設定し、計画を立てたら迷わず実行していく。その課程で新しいことに対して積極的な方との接点ができ、思わぬ方向に発展していく。そしてそれがこの事業の中核メンバーにやる気と責任感を与えてくれていると感じています。

また、地の利を活かして生まれる利益は戸島の地域おこしの資金として活用するとともに、地域の皆さんと宇和海熟成酒を飲みながら未来の戸島について話し合うことができればと思っております。

^{*}浸水防止策は、5つの素材を使って現在実験中です。